



令和 8年 6月 1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 6月のねらい」
せいめいそんちょう
生命尊重

「気持ちをわかろうとすること」

先日、私がぱんだ組に行った時のことです。

少し離れたところで、BくんとCちゃんの動きを目で追っているAくんの姿が気になりました。私は「きっとAくん、一緒に遊びたいと思っているんだろうな。それとも棚の中に気になることがあるのかな?」と思い、しばらく様子を見守ることにしました。Aくんは言葉は発しませんが少しずつBくん、Cちゃんに近寄っていったのは、タオルの隙間から棚の中を覗き込み、友だちと目が合うとまた離れて様子を見る…という行動を繰り返していました。



しばらくすると、BくんとCちゃんはカエルになりきってジャンプしながら遊び始めました。この時、離れた場所でAくんも真似をして、笑顔でカエルになってジャンプし始めました。そんな姿を見て、私は嬉しくなりました。なぜなら、いつも緊張気味な表情をしているAくんが友だちの姿を見て「楽しい」と心を動かして遊び、友だちと心をつながたいと願う瞬間に立ち会えたからです。その後、私はBくん、Cちゃんの誘いを受けて一緒にカエルごっこを始めました。私が一緒に遊ぶことでAくんが近寄れないかもしれないなあ…と不安でしたが、しばらくすると、Aくんは興味を持って近づいてきました。そんなAくんの様子に気付いたCちゃんはAくんの顔を覗き込みながら

Cちゃん 「一緒に遊びたい?入りたいの?」

Aくん 頷く

Cちゃん 「いいよ!」

Aくんは、BくんとCちゃんに仲間に入れてもらおうと、大きく口を開けて笑いました。そんなAくんの表情から「嬉しい気持ち」がたくさん溢れていました。



大人から見たら「入れて」と言えば済むことでも、子どもにとっては「なんて言えばいいのかな?」「受け入れてもらえるのかな…」「嫌って言われたらいやだな」などと不安がたくさんあるのでしょう。一人ひとりの視線、手や体の動き、沈黙、涙などで表現される心の声にこそ、もっと目を向け、気持ちをわかろうとすることが大事なのだと改めて子どもたちから教えてもらいました。子どものことをもっと知ろう、信じようとする気持ちを持って関わるのが、一人ひとりの安心感や自己発揮につながります。言葉で表出されることばかりに目を向けるのではなく、相手の心の動きに目を向けていける大人でありたいですね。そして、子ども一人ひとりの気持ちを大事にしようとするや相手から受け入れてもらって嬉しい経験が命ある人や生きもの、物を大事にしようとする気持ちに繋がっていくのでしょうね。

(宇佐美)

